

化学専攻のポリシー

大学院修士課程

【人材養成の目的／教育目標】

養成する人材像

化学に関する基盤的な知識と高度な専門学力に基づいた広い視野を持ち、新たな課題に主体的に取り組むことのできる人材

【アドミッション・ポリシー】

入学者に求める資質と能力

化学専攻では、広く物質の関わるさまざまな現象に知的好奇心と探究心を有し、基本的な概念や考え方を身に付けた人材を求めます。具体的には次のような項目に該当する人材です。

- ・ 広く物質の関わるさまざまな現象に好奇心と探求心を有している
- ・ 化学の基本的な概念や考え方を身に付けている
- ・ 論理的に思考し、集中してものごとに取り組むことができる
- ・ 専門教育で必要となる基礎的な語学力を有している

入学者の選抜方針

上記の資質と能力をもつ人材を選抜するために化学専攻では、基礎専門科目、選択専門科目からなる筆答試験、英語外部テストのスコアによる語学力評価及び研究能力ならびに適性に関する口頭試問を行い総合的に評価します。

また、学部3年次までの成績、英語外部テストのスコア及び面接に基づく口述試験による選抜も実施します。

【ディプロマ・ポリシー】

修得する能力

- ・ 問題の多面的な理解に必要な幅広い基盤的な専門学力
- ・ 高度な専門学力に基づく実践的な問題解決力
- ・ 新たな課題に主体的に取り組み、化学の深奥を究めようとする探求力
- ・ 多様な考え方をまとめて新たな方向性を見出す力
- ・ 国際的に通用するコミュニケーション基礎力

【カリキュラム・ポリシー】

教育内容

化学専攻では、化学全般にわたる幅広い専門知識と課題解決に必要な高度な専門学力を修得するためのカリキュラムを編成・実施しています。

具体的には、幅広い専門知識を習得するため、必修科目として、物理化学、無機化学、有機化学の三つの基礎特論を講義科目として設けています。これらに加え、高度な専門的知識、課題解決能力を涵養するため、化学の広い分野にわたり、より専門的な講義を選択科目として開講し、学生の多様な興味・要求に応えられるように教育課程を編成しています。

【学位論文評価基準】

修士学位論文は、化学における新しい知見を含む、自著の論文であって、それらが客観的に認められるものでなければならない。

大学院博士後期課程

【人材養成の目的／教育目標】

養成する人材像

化学の専門分野におけるリーダーとして、自然科学の発展と活用に貢献できる人材

【アドミッション・ポリシー】

入学者に求める資質と能力

化学専攻では、広く物質の関わるさまざまな現象に知的好奇心と探究心を有し、新たな研究を展開する強い意欲を持つ人材を求めます。具体的には次のような項目に該当する人材です。

- ・ 広く物質の関わるさまざまな現象に好奇心と探求心を有している
- ・ 論理的に思考し、集中してものごとに取り組むことができる
- ・ 新たな研究を主体的に遂行しようとする高い意欲を有している
- ・ 国際的な活躍に必要な語学力を有している

入学者の選抜方針

上記の資質と能力をもつ人材を選抜するために化学専攻では、化学全般にわたる基礎的な学力を問う試験、英語外部テストのスコア、およびこれまでの研究成果、研究遂行能力ならびに適性に関する口頭試問により、総合的に評価します。

【ディプロマ・ポリシー】

修得する能力

- ・ 化学に関する体系化された幅広く深い知識をもとに、広く物質の関わる現象の本質・普遍性を見抜き、新たな課題を発見・探求し、これを解決に導く力
- ・ 高い見識と倫理観のもとに化学のフロンティアを先導する力
- ・ 化学と多方面の知見を有機的に結びつけ、活用する力
- ・ 化学の専門分野において国際的にリーダーシップを発揮する力

【カリキュラム・ポリシー】

教育内容

所属する研究室での研究指導を基本とし、幅広い専門学力、高度な研究遂行能力、コミュニケーション能力等を備えた人材の育成を行っています。

また、自らの研究成果等を発表・議論することができるような場を積極的に設けています。

【学位論文評価基準】

博士学位論文は、新規性、独創性と十分な学術的価値を持つ、化学に関する自著の論文であって、それらが客観的かつ対外的に広く認められるものでなければならない。